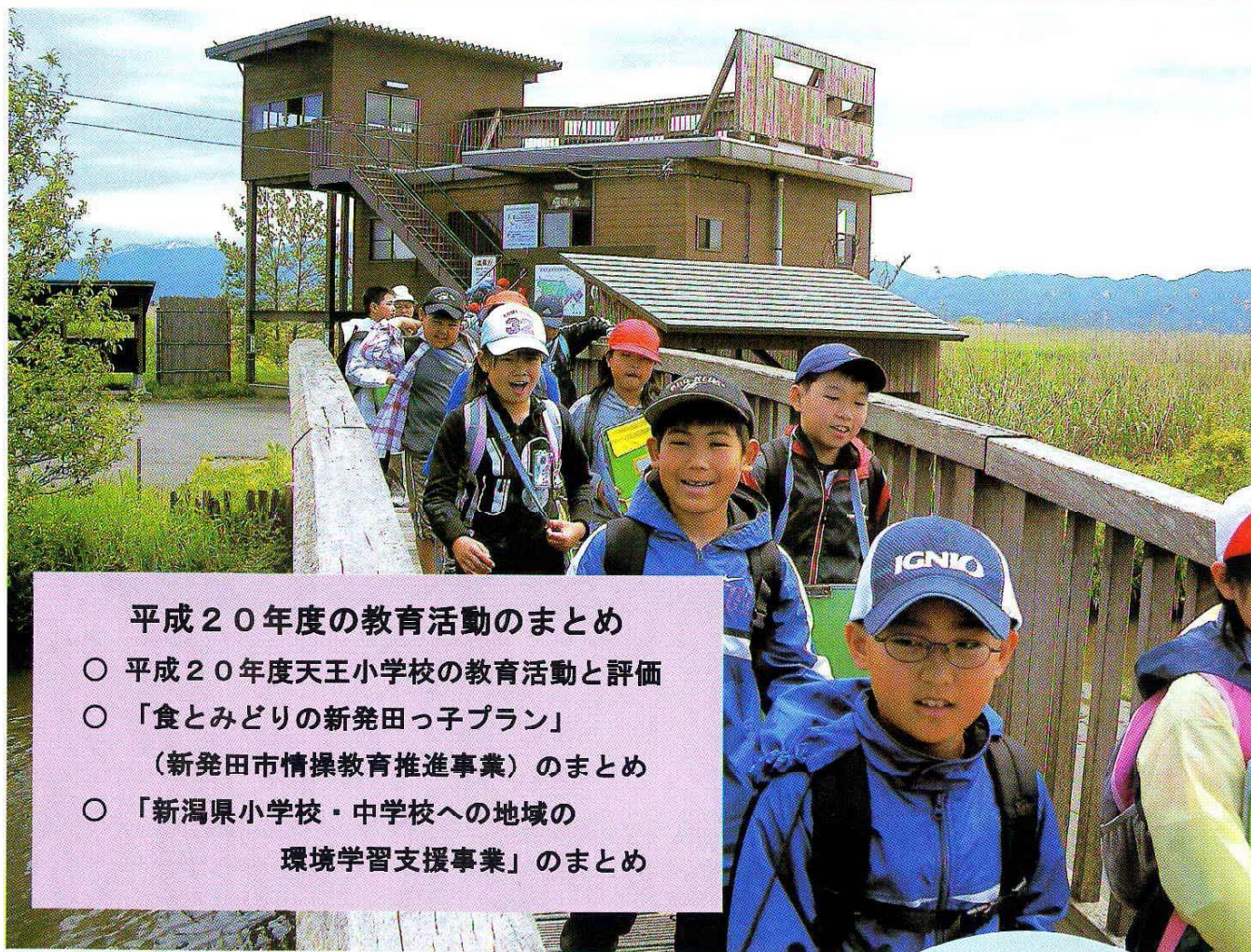


# 希望と飛躍



## 平成20年度の教育活動のまとめ

- 平成20年度天王小学校の教育活動と評価
- 「食とみどりの新発田っ子プラン」  
(新発田市情操教育推進事業)のまとめ
- 「新潟県小学校・中学校への地域の  
環境学習支援事業」のまとめ

## 新発田市立天王小学校

〒959-2325

新潟県新発田市天王甲 18 番地

TEL:0254(32)3101 FAX:0254(32)3102

E-mail:master@tennou.shibata.ed.jp

<http://tennou.shibata.ed.jp>





# 平成20年度 天王小学校の教育

## 平成20年度 天王小学校グランドデザイン

**教育目標： 目輝き真理を求める 笑顔はじけ仲間と集う 顔に汗し自分をきたえる**

**新発田市の教育**  
子どもが輝く新発田の教育  
(道学共創)  
【人間力を育む】

- 豊かな心を育む教育の推進
- 自ら学び、自ら考える教育の推進
- 健やかな体を育む教育の推進

**目指す学校像**

- 毎日が楽しく、児童が生き生きと登校してくる学校（大好きな学校）
- 地域の人たちから信頼され、共に創り上げる学校（地域に生きる学校）
- 教職員が生き生きと教育活動に取り組む学校（やりがいのある学校）

**基本方針**

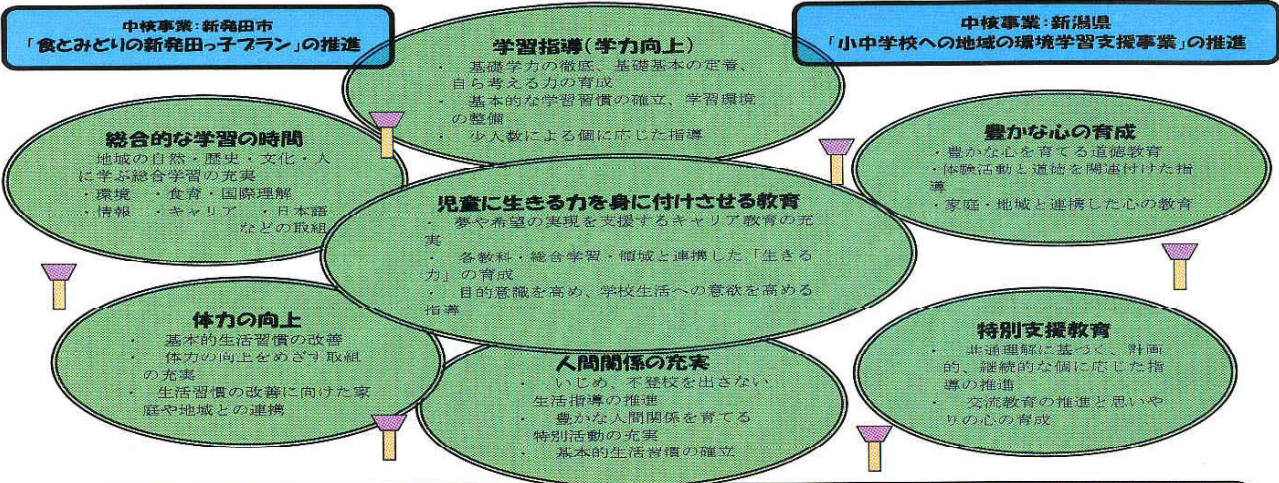
- 児童一人一人の夢や希望を大切に、生きる力を身に付けさせる教育活動を推進する
- 地域に存在する学校としての存在感を高め、保護者・地域から信頼される学校づくりを行う
- 教職員が進んで学校運営に参加し、創意工夫を行い、一体となった教育活動を展開する中で学校の教育力を高める。

保護者・地域の願い「子ども達は地域の宝」

- 未来に希望をもち、将来の地域を支え、誇りに思える人になってほしい。
- 豊かな人生が送れる資質を身に付けそれを支える学力を伸ばしてほしい。

児童のようす

- 素直で表情が明るく挨拶や返事がよい
- 男女の仲が良い
- 上級生と下級生の仲が良い
- 体を動かすことが好きである。
- 学習や生活の取組がやや消極的である
- 筋道を立てて考えることが苦手である。
- 知識・技能の定着が不十分である



**教育環境の整備**

- 言語環境の整備と充実
- 校内内外の美化と整頓
- 学校花壇等の充実
- 校内ギャラリーの充実
- 職員の指導力向上のための校内研修の充実
- 学校力・教師力を高める学校評価・教員評価

**地域の支援**

- 学習指導・生活指導等における豊浦地区の学校・園間の連携の推進
- 学習指導、栽培、創育、環境整備等における地域の方々の支援
- 体験活動及び各教科における学習支援ボランティアによる支援
- 児童の安全確保のための保護者・地域との連携

**学校評価システムにおける取組の過程および成果の公表**

**「徳」の分野：心の教育の目標**

- 家庭・地域・学校で積極的にあいさつができる児童の割合を75%以上にする。
- 「学校が楽しい」と感じる児童の割合を90%以上にする。
- いじめ、不登校を出さない。

**「知」の分野：学力向上の目標**

- 国語・算数の単元テストの平均到達率が目標値以上の児童の割合を65%以上にする。
- NRT学力検査において、2～6年の国語・算数の半数以上が全国平均を上回る。
- 家庭学習の学年のめやす時間以上に取り組む児童の割合を85%以上にする。
- 「自分の考えを発表することができる」と肯定的に評価する児童の割合を85%以上にする。

**「体」の分野：体力向上の目標**

- 今年度の体力テストの結果で、全種目の30%以上で、県平均を上回る。
- 2学期の体力テストにおいて、全種目の50%以上で、1学期の結果を上回る。
- 「運動が好き」と答える児童の割合を85%以上にする。
- 「余暇」「睡眠」「朝食」のあり方について、肯定的評価をする児童の割合を70%以上にする。

**天王小学校の概要**

- 沿革：明治7年の創立より134年を数えます。平成7年の新潟県北部地震で被災したため、翌8年に新校舎が竣工。平成15年に市町合併により新発田市立となりました。
- 児童数・教職員数：全校児童103名(男子57名、女子46名)、教職員16名です。
- 学級数：7学級(各学年1学級及び特別支援学級1)です。



# 平成20年度 教育活動の取組と評価

教育目標： 目輝き 笑顔はじけ きたえる子

・目輝き真理を求める ・笑顔はじけ仲間と集う ・額に汗し自分をきたえる

## 知の分野

〔学力向上の取組〕

- 基礎学力の徹底を含む基礎・基本の定着
- 総合的な学習の時間における自ら考える力の育成
  - ・ 基本的な学習習慣の確立、学習環境の整備
  - ・ 少人数の利点を生かす個に応じた指導の充実
  - ・ 地域の自然・文化・人に学ぶ総合学習の充実



## 徳の分野

〔豊かな心の育成〕

- 豊かな心の育成と互いに思いやる人間関係を育む。
  - ・ 豊かな心を育てる道德教育の充実
  - ・ 家庭、地域と連携した心の教育の推進
  - ・ いじめ・不登校を出さない生活指導の推進
  - ・ 豊かな人間関係を育むひまわり班活動の充実

## 体の分野

〔体力向上の取組〕

- 体力の向上と健康的な生活習慣の確立
  - ・ 体力の向上をめざす取組の充実
  - ・ 食に関する指導(食育)の充実
  - ・ 基本的な生活習慣の改善に向けた家庭や地域との連携



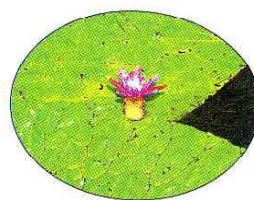
### 知・徳・体の各分野の到達目標と評価結果 ※ 評価はあらかじめ定めた基準に基づくものです。

	到達目標 (成果)	7月		12月	
		達成数値	評価	達成数値	評価
知	国語・算数の単元テストの平均到達率が目標値以上の児童の割合を65%以上にする。	77.6%	A	81.4%	A
	NRT 学力検査において、2～6年の国語・算数の半数以上が全国平均を上回る。	8/10	A	—	—
	家庭学習の学年のめやす時間以上に取り組む児童の割合を85%以上にする。	82.8%	B	82.5%	B
	「自分の考えを発表することができる」と肯定的に評価する児童を85%以上にする。	87.2%	A	79.6%	B
徳	家庭・地域・学校で積極的にあいさつができる児童を70%以上にする。	94.2%	A	97.0%	A
	「学校が楽しい」と感じる児童を90%以上に徳する。	96.2%	A	85.4%	B
	いじめ・不登校を出さない。	1件	C	1件	C
体	2学期の体力テストの結果が1学期の結果を50%以上上回る。	—	—	73.7%	A
	「運動が好きだ」と答える児童が80%以上にする。	96.1%	A	85.0%	A
	「余暇」「睡眠」「朝食」のあり方について、肯定的評価をする児童を70%以上にする。	79.9%	A	79.9%	A



## 新発田市情操教育推進事業

# 食とみどりの新発田っ子フランの活動



## 食育

「育てる」「作る」「食べる」「返す」の4つの分野を通して、「食」に関する学習を行い、食への興味関心を高め、豊かな心・感謝の気持ちの育成に努めました。

### 育てる(栽培)



### 作る(料理)



### 返す(リサイクル)

### 食べる(食事)

#### 給食残渣のリサイクル活動開始

新発田市が進める「豊かな大地を基盤とした食のサイクル」の推進の一環として、9月より、給食の残り物を有機肥料に変える給食残渣リサイクル活動を始めました。学年ごとの月当番で、全校の残渣を回収バケツに集めます。集まった残渣は週に2回収集してもらい、市内の有機資源センターへ運ばれ、有機肥料にしてもらいます。

この活動を始めて、食物の大切さに気がつき、給食を残さず食べる人が増え、全校の残渣量も減ったようです。



さつまいも栽培



稲刈り体験



親子もちつき大会



だんごの木飾り

## 「食とみどりの新発田っ子フラン」について

「新発田市情操教育支援事業」のことで、新発田市内の小・中学校に学ぶ児童生徒が心優しく、情操豊かな人間として育ち、次代の新発田市民として、また世界にはばたく人材として活躍していくことをねらいとし、平成14年度より行われています。天王小学校では、この事業の趣旨の下で「環境教育」「食育」「国際理解教育」「情報教育」「福祉」「芸術文化活動」など、幅広い教育活動を展開しています。

なお、平成21年度より、新発田市の全小中学校が教育課程特例校指定を受け、新たに教科「日本語」を導入し、さらに充実した教育活動を展開していく予定です。



## 国際理解



ALTの先生による英語活動や海外文化等の紹介、海外で活躍している方からの活動の紹介などを通して、視野を広げ、国際理解への興味関心を高めました。

## 福祉



ハートウォーキング活動としてデイサービスセンターやグループホームへの訪問を行い、お年寄りと交流することで、福祉への興味関心を高めました。

## 情報



学習活動の基盤としてのコンピュータの活用方法を学びました。また、総合学習や教科学習での調査やまとめの活動でも情報の収集やまとめを行いました。

## 環境学習

3年生以上は、総合的な学習の時間に、「福島潟」を主なフィールドにした環境学習に取り組みました。班ごとにテーマを決めて、現地調査を行った上で、調査した内容をまとめました。総合学習発表会では、保護者だけでなく、地域の指導者の方々にも来ていただき、さまざまな意見をいただきました。



### 課題の設定

福島潟のレンジャーの方から福島潟の説明を聞いたり、福島潟を案内してもらい、自分が学習したいテーマを考えました。



### 課題の探究

テーマ班ごとに分かれての調査活動。現地調査や施設見学、聞き取り調査等で、多くの方々の指導や支援をいただきました。



### 調査結果のまとめ

採集した資料の整理や分析、学習のまとめなどを行いました。発表会に向けての話し合いや資料調査などを行いました。



### 学習成果の発表

総合学習発表会で学習のまとめを発表しました。大勢の保護者・地域の方々の前で成果を発表し、ご意見をいただきました。

## どんばす (オニバス) の栽培について

天王小学校には、昭和41年より福島潟の干拓で絶滅寸前だったどんばす(オニバス)を移植してどんばすの保存に努めてきた歴史があります。

一昨年に、校庭のどんばす池の改修を行い、昨年度から総合学習の「オニバス班」が、地域の方の指導を受けながらどんばすの栽培に取り組むことになりました。

春の種まき、肥料やり、大きくなった葉の間引き、などを繰り返し、とうとう8月下旬に、可憐な花をたくさん咲かせ、地域の方々に楽しんでいただきました。(左頁上の写真) どんばす班は、成長の記録やオニバスの研究の他にも「オニバス染め」や「オニバス料理」に挑戦するなど、幅広い活動に取り組みました。





平成20年度 新潟県

# 小・中学校への地域の環境学習支援事業の活動



## 福島潟をフィールドとした環境学習

3, 4年生と5, 6年生は、総合学習の時間を中心に、福島潟をフィールドとした環境学習を行いました。個人の興味・関心に応じたテーマをもとに、グループを結成し、共同で調査・まとめなどを行い、12月の総合学習発表会に向けて、学習を進めてきました。

### 3, 4年生の活動

3, 4年生は、8班に分かれて活動しました。3年生にとっては初めての環境学習なので、4月に校内やビュー福島潟でのガイダンスを行ってから、テーマを決めて活動しました。

〔班のテーマ(班名)〕

- ・むかし班 ・鳥A班 ・鳥B班 ・ゴミ班
- ・水生植物班 ・魚班 ・オニバス班 ・植物班

### 5, 6年生の活動

5, 6年生は、7班に分かれて活動しました。3, 4年生での学習を発展させるようなテーマ設定に心がけました。福島潟へは自転車を使って出かけ、班ごとに活動しました。

〔班のテーマ(班名)〕

- ・水俣班 ・川班 ・ゴミ班 ・魚班
- ・エコ班 ・鳥班 ・オニバス班



### 福島潟での活動

天王小学校は、福島潟の東岸にあります。福島潟で活動する時は、5, 6年生は自転車で、3, 4年生はマイクロバスを使って移動しています。主な活動場所は、ビュー福島潟・環境と人間のふれあい館・オニバス自生地・雁晴れ舎・自然学習池・潟来亭などです。



## 「小学校・中学校への地域の環境学習支援事業」について

新潟県の事業で「子どもたちが、環境問題を身近なものとしてとらえ、環境の大切さを理解し、水俣病のような悲劇を繰り返さないための知識、行動力、意欲を育むために、学校が家庭や地域と連携して行う環境学習を支援」する事業です。天王小学校は、昨年度に引き続きモデル校の指定を受け活動を行いました。

天王小学校では、「地域素材としての福島潟を活動のフィールドにして、環境・歴史・文化を学ぶ」「身近でおきた新潟水俣病を学び、差別・偏見のない心を育む」をテーマに総合学習を中心に活動を行い、2月26日に実践のようすを「自然はともだち 全体発表会」に5年生が参加し、発表してきました。



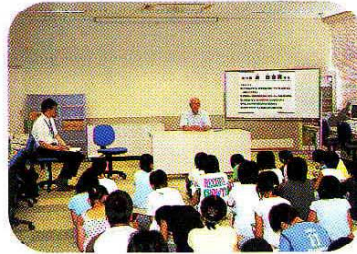
# 新潟水俣病の学習

平成 18 年度に新潟県水俣病発生地間交流事業に児童6名が参加し、熊本県水俣市で水俣病の学習を行いました。それを契機に、天王小学校では、新潟水俣病について学ぶと共に、差別や偏見をもたない心を育てることをねらいとした学習を進めています。



3, 4年生は、総合学習の時間に、環境と人間のふれあい館へ行きました。館員の方の説明や展示、環境に関する体験装置などを通して、新潟水俣病への理解を深め、環境保護の大切さを学びました。

5, 6年生は、新潟水俣病の語り部の方から、病気にかかったようす、病気の苦しみ、差別や偏見を受けたことなどのお話を聞きました。つらい体験のようすを身近に聞いたことで、二度と公害をおこしてはならないことを強く感じました。



5年生は、阿賀野川上流の旧昭和電工鹿瀬工場跡地から下流の河口部まで、新潟水俣病の現地見学を行いました。実際に新潟水俣病の発生地などを見学したことで、身近な地域で悲惨な公害が起こったことを実感することができました。

## 新潟県「水俣病発生地間交流事業」に児童6名が参加!

平成18年度につづき、今年度も新潟県水俣病発生地間交流事業に、6年生2名、5年生4名の計6名が参加しました。

7月に、2泊3日で熊本県水俣市を訪問し、水俣病関連施設の見学や現地の小学生と交流し、一緒に水俣病の学習を行いました。つづいて8月に、水俣市の小学生が新潟を訪れ、阿賀野川の上流から河口まで新潟水俣病の現地研修を行いました。また、一緒に参加した新潟市立太田小学校と天王小学校の学校訪問なども行い交流を深めました。

参加した6名の児童は、この交流の成果を12月の高学年総合学習発表会で、5, 6年児童と保護者・地域の方々へ報告しました。





# 平成20年度の天王小学校 =トピックス=



## 第13回新潟県環境賞を受賞しました！



天王小学校の環境学習の取組が評価され、第13回新潟県環境賞を受賞しました。受賞理由は、「新潟県および新潟市からモデル校指定を受け、福島潟をフィールドとした環境学習や新潟水俣病の学習を行っている。昨年度は、学習の成果を県主催の学習発表会や環境省主催のセミナーにおいて発表した。」というものです。

8月20日に朱鷺メッセで行われた表彰式に6年生の代表5名が参加し、泉田知事から表彰状をいただきました。

## イリノイ州教育視察団が来校！

6月20日に、アメリカのイリノイ州(シカゴがある州)の教育視察団の方々が、天王小学校の教育活動や子ども達の様子を見に来られました。来られた方々は、高校や小学校の先生方など8名で、校長室での教育懇談、授業参観・校舎見学をした後に、ランチルームで全校児童とともに給食を食べました。子ども達は、給食の時間や昼休みに、カタコトの英語に身振り手振りを交えながら一生懸命に話しかけていました。視察団の皆さんもとても喜んで帰っていかれました。



## ラオスのお話



六月二十七日。ラオス山の文庫基金に代表の安井清子さんから、ラオスの子ども達の様子をお聞きしました。

## PTA親子コンサート



9月20日。五十嵐尚子さんとアンサンブル・モウイの皆さんによる、コンサートを行いました。きれいな音色がひまわりホールに響きわたり、秋の夜長のひと時を家族で楽しみました。

## リーダーズシアター

11月17日、読書旬間の一日。役者の荒井和真さんから3名の方から、朗読と楽器演奏の組み合わせによるリーダーズシアターを行いました。「嵐の夜に」など臨場感あふれる朗読に、みんなお話の世界に引き込まれていきました。



## 地域の皆様に支えられて(編集後記)

平成20年度の王小学校の教育活動を二つの中核事業のようすを主にまとめてみました。

教育目標「目輝き、笑顔あふれ、きたえる子」の達成に向けて、子ども達が生き生きと活動しているようすが少しでも伝われば幸いです。

また、今年も多く活動に対して、大勢の保護者・地域の皆様のご支援をいただきました。

21年度も「ますます輝く天王小学校」を合言葉に、子ども達のますますの成長に努めていきたいと思っております。(校長 小島成生)